

【ACL 導入事例】

# 大手自動車部品メーカー様

**統合監査と CAAT 活用を中心に、データ監査ツール ACL 導入に着手した同社では、監査の効率化や質向上など様々な改革に成功しています。**

1949 年設立された自動車部品メーカー。自動車部品に関連する技術をコアに、環境、快適、安全、利便をキーワードに先進的な自動車技術、システム、製品を世界の主要な自動車製造会社すべてに提供しているトップレベルの自動車部品サプライヤー。国内に 68 のグループ企業、海外に 119 の拠点をもち社員数は本体で 38,300 名余、グループ全体では 123,000 名を超えている。

## ■ 監査体制について

同社では、取締役会、会長、社長、副社長の直下に独立して監査室を配置。日本本社、北米、欧州、中国の世界4極に監査部門を設置し、総勢 35 人の監査員(本社 27 名、中国 2 名、欧州 2 名、北米 4 名)で全世界の 187 社をカバーしています。



監査対象は、本社と全世界のグループ会社で、グループ会社は日本国内が 68 社、海外が 119 社を数え、監査対象となる会社の総売上げは、年間 3兆7,600 億円となっている。「グローバル展開が求められる部員全員が J-SOX レビューと実地監査の両方を担当しており、このことが統合監査の導入の重要なポイントとして掲げていました。」(大手自動車部品メーカー 監査室 担当係長 A 氏)

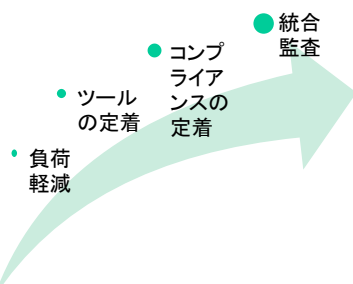
## ■ 統合監査

同社では、内部監査の強化を図るとともに、CAAT ※による監査手法を推進、監査の効率化、グローバル化を目標に、以下の項目を掲げ、統合監査の確立を目指していました。

1. J-SOX レビューと実地監査を関連付けて実施することにより、内部統制を効率的かつ効果的に評価(監査日程の短縮、被監査部門の負荷軽減)すること。
2. 内部統制の仕組みをコンプライアンス対応に限定せず、グループの経営管理のツールとして作りこんでいくこと。
3. J-SOX レビューで財務報告の信頼性と業務の有効性・効率性を確認し、実地監査で深堀調査を行うこと。
4. その結果、J-SOX レビューでは問題なしでも、実地監査で発見された問題を改善し、RCM に昇華すること。

### 統合監査の成果と課題:

**[成果]**  
監査期間の短縮(30%)及び被監査部門の負荷軽減  
RCM が経営管理のツールとして定着  
(統合監査のサイクルを回すことで RCM が継続的に進化)  
**[課題]**  
統合監査のグローバルでの完全定着  
コンプライアンス項目の充実



## ■ CAAT 導入の道程「データ監査の変遷」

同社では、2004 年頃からオープン系 DB の導入により、自らデータをダウンロードして、Excel / Access 等でデータの分析を開始していました。「J-SOX の対応により一時中断していましたが、2007 年から再開し、CAAT を活用したデータ分析を行っていました。こうした中、データの大容量化に伴い、Excel や Access では対応が困難になり、実績のあった「データ監査ツール ACL」導入を決定しました。」(A 氏)

「データ監査ツール ACL を導入した理由として、以下の項目が大きな動機になりました。」(A 氏)

- 社内データの電子化
- 大容量データへの対応
- 現状ツール(Excel / Access)でのデータ分析に限界
- 処理スピードの問題

## ■ ACL 本格導入の道程

### 導入の歴史

当手を振り返り、「J-SOX の対応に時間を取られ、予定より時間がかかってしまいました。当初はエージーテック社主催の機能紹介セミナーを受講したり、評価版を試用したりと、無料の範囲で研究を重ね、その後、1 ライセンスを購入しました。」(A 氏) また、「自ら有償のトレーニングを受講するなどスキルアップに努めました。その後、監査室「重点実施事項」に繰り入れるとともに、2 ライセンス目を購入し、2 名体制へ強化を図りました。そして、大量データで ACL の活用研究を進め、調達部監査で本格活用(2010 年 2 月)を開始しました。」(A 氏)

### 導入の決め手

「調査対象データ 280 万件の同一監査項目に対して、担当分野を決め、2 人が ACL を 3 人が Access + Excel を使用して調査し、結果を比較しました。」

ACL	監査企画書に沿った全件調査を完了 ・指定商流から外れた取引の抽出 ・部別/仕入先別の購入金額推移把握から異常抽出
Access + Excel	分析のための処理能力に限界 監査企画書に沿った全件調査をあきらめ、部分チェックを実施

※CAAT (Computer Assisted Audit Techniques) はコンピュータ支援監査技法と呼ばれる監査を実施する際の手法

「従来のツールでは、機能的な限界があり、データ監査そのものの足枷になっていました。研究の結果、機能面や実績などから、ACL 導入が有効と判断しました。ACL 導入により、異常値の事前把握による監査の効率化や全件調査による網羅性向上等、さまざまな変革をもたらすことができました。」(監査室 A氏)

### ■ データ監査スキル維持のための教育

短期間で実用域レベルのスキルに引き上げるため、「室員には操作スキルとあわせ課題を課し、データ監査利用のためのスキルアップを目指しました。」(A氏)

- 自社の監査に即した教育資料とするために
  - ・ 頻繁に使用する機能と殆ど使用しない機能の選別
  - ・ 実際の監査データを使ったオリジナルメニューの構築
  - ・ 操作トレーニングだけでなく監査ポイントの習得 (監査ポイント無くして ACL は活用できないため)
- 一度教育しただけでは忘れるので繰り返し教育の実施
- 各課に ACL 推進者を指名、重点的に教育を実施

### ■ ACL 活用効果例

「データ監査ツールの導入により、今まで見えなかったリスクの可視化に成功し、様々な監査手法を適用できるようになりました。」(A氏)  
以下は、その一例としてデータ監査ツール ACL 導入で実現した効果例をお聞きました。

#### I. 事業部監査(棚卸)

製造部門で行われている棚卸データに対し、ACL による監査を実施しています。大量のデータを査閲、分析することで不正の牽制効果、抑止効果が大きく、自社リスクの軽減が可能になりました。リスクマネジメントの一環として、データ監査による異常値調査は重要なポイントになっています。

また、実地監査前に事前質問票で異常値の背景、理由を確認し、実地監査時の深堀調査により、監査を効率的に進めることが可能になりました。

#### II. 不良伝票起票の正確性監査

日々の業務処理で蓄積されるデータは膨大なものとなりますが、データ監査の導入により、全件を対象とした監査が可能になりました。ACL によるデータ監査で、大量データのモニタリングが可能になりました。

### ■ 事例から考えるデータ監査の意義

「CAAT の活用と ACL 導入により、調査負荷が高く従来できなかった監査が可能になる、あるいは監査ノウハウの蓄積が可能になるなど、さまざまな変革をもたらしました。」(A氏)

#### 証拠の保全性

「紙の証拠は簡単に廃棄できてしまうが、今の企業コンピュータシステムでは一度インプットされたデータは簡単には消去できません。単価変更が誤謬ではなく不正であった場合、当事者である組織または個人は、紙の監査証拠を裁断することが考えられます。しかしながら、電子データが残っているため、異常値のリストアップ、検証が可能になりました。」(A氏)

#### 網羅性の担保

「もし、20万件の中から J-SOX の 25件サンプリングで行ったとしても、上記のような異常値を抽出できる可能性は限りなくゼロに近いでしょう。ACL を使えば前回監査以降数年分のデータを全件精査することが可能であり、仮に問題が見つからなかったとしても、その条件において「問題は見受けられなかった」と積極的に表明することができるようになりました。」(A氏)

#### 新たな切り口の監査の実現

「ACL は仕様上、処理データ件数に上限がないため、従来であれば調査負荷からあきらめざるを得なかった切り口の監査分析が可能になりました。」(A氏)

#### 監査ノウハウの蓄積と伝承

「全ての分析操作が「ログ」という記録で保存されていく ACL のようなツールを活用すれば、分析工程の客観的証明が可能となし、ノウハウの共有・伝承が容易になりました。」(A氏)

### ■ 今後の展開

同社監査室では、監査対象による活用レベルのばらつき解消、国内グループ会社監査への活用拡大、海外監査部門への展開強化(すでに北米では開始)などを計画しています。

さらに監査レベルを上げ、統合監査に重点を置いたデータ監査の活用を拡大していく予定です。



※ ACLおよびACLのロゴはACL Services Ltd.の商標または登録商標です。  
※その他記載された会社名および製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

URL <http://www.acljapan.com/>

ACL もしくは事例内容に関するお問い合わせ先  
ACL 事務局 [info@agtech.co.jp](mailto:info@agtech.co.jp)



Smart Software, Smarter Deployment  
**株式会社エージーテック**

東京都千代田区神田錦町1-21-1 ヒューリック神田橋ビル3F  
TEL:03-3293-5300(代) FAX:03-3293-5270